

平成28年度病害虫発生予報第5号

平成28年 8月 1日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は平年並 穂いもち抵抗性品種の作付けが多い	± -
	紋枯病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	- ± -
	セジロウンカ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数はやや少ない	± -
	トビイロウンカ	平年並	県全域	7月下旬現在発生を認めていない(平年並)	±
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は少ない	- -
	斑点米カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	少ない	県全域	7月下旬の被害株率は低い 予察灯における誘殺数はやや少ない	— —
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

[イネ・紋枯病]

病斑が上位葉に伸展する前に、モンカット粒剤、オリブライト250G、モンガリット粒剤などで防除しましょう。農薬の使用にあたっては、収穫前日数に注意してください。

・留意事項

ウンカ類の飛来・発生状況については、本日発表の「ウンカ類情報第3号」を参照してください。

ハスモンヨトウ及びオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号(ダイズ)」及び「オオタバコガ情報第1号(ダイズ・キャベツ・キク)」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや多い	県全域	5月の枯枝の孢子形成量はやや多い 8月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	—
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はおおむね平年並	± ±
ナシ	うどんこ病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	＋
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	7月下旬の発生量は多い 8月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月下旬の被害葉率はやや低い	— —
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	コナカイガラ ムシ類	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬のヒノキにおける生息頭数はやや多い ヒノキからの離脱時期を迎えている	＋ ＋

・防除対策

[ウンシュウミカン・黒点病]

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤などで防除しましょう。散布間隔は、累積降雨量200mmから250mmに達したとき、または散布後30日を目安としましょう。

[ナシ・うどんこ病]

早期落葉を防ぐため、収穫前日数に注意してストロビードライフロアブルやオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

収穫前日数に注意してコロマイト乳剤やマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

他の園への飛散に注意して、収穫後にICボルドー412やトレノックスフロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・果樹カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ情報第4号」を参照してください。

・留意事項

ナシ黒星病が多く発生しているほ場があります。次作のため秋期防除の準備をしましょう。

ブドウベと病の発生量が多い状況です。樹勢を維持し早期落葉を防ぐため、曇雨天が続く場合は防除しましょう。

チャノキイロアザミウマの有効積算温度から計算した成虫発生ピーク時期は、前年に比べ2日から5日早くなると予測します。詳細は本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参照して下さい。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参考にして下さい。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、発生量が多くなると予測します。育苗時には防虫ネットなどを設置して、成虫の侵入を防ぐとともに、粒剤やかん注処理剤などで防除を徹底しましょう。コナガは、キャベツで5月から6月に多発しているほ場があったので、今秋作の育苗においては特に注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴのハダニ類の発生量が多いほ場が、散見されます。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。成虫と幼虫の両方に効果のあるアファーム乳剤や、幼虫に効果のあるモベントフロアブルのかん注処理と成虫に効果が期待されるコロマイト水和剤や気門封鎖型農薬などを組み合わせて用いると良いでしょう。炭酸ガス処理をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、注意しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	ハダニ類	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない	-

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参考にして下さい。

・留意事項

中山間地域で白さび病が多発しているほ場があります。中山間地では今後も発生に好適な気象条件が続きます。天候がぐずつく場合、発生ほ場では系統の異なる薬剤でローテーション散布を行いましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台7月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%